

[IV] 日韓比較

日本と韓国で同時に調査を行なったのは、1999年、2000年、2005年、2007年の4回であるが、ここでは4回ともおこなった質問項目の他、とくに日韓の共通点や相違点を見ていく場合に重要と思われる結果を中心に示す。

第23章 宗教意識の比較

a) 信仰をもつ割合

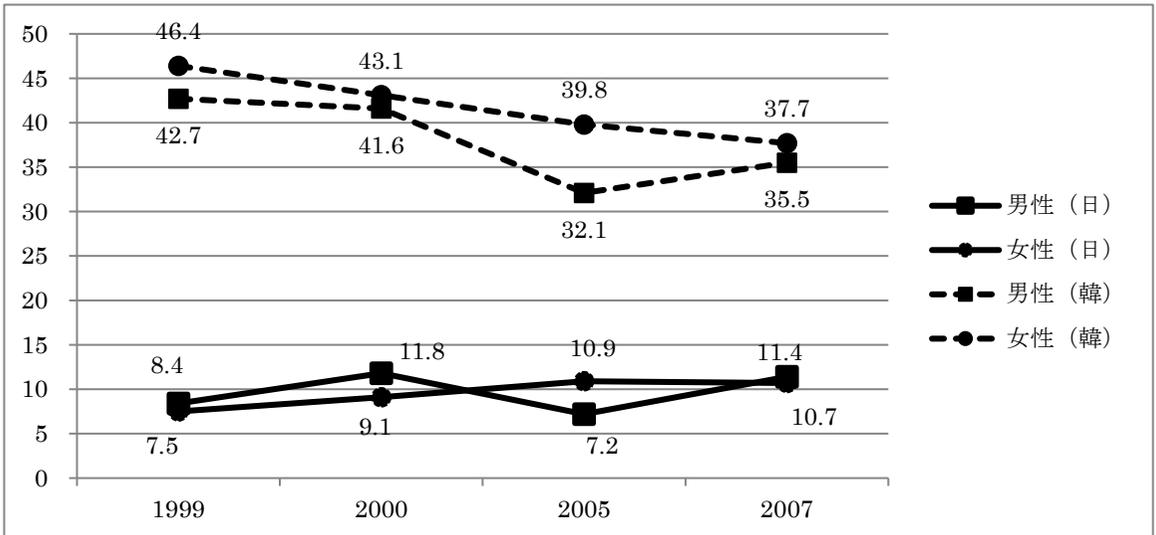
質問内容

あなたは宗教にどの程度関心がありますか。次のうちから選び、さらにそれぞれの質問に答えて下さい。

- 1.現在、信仰をもっている
- 2.信仰はもっていないが、宗教に関心がある
- 3.信仰はもっていないし、宗教にもあまり関心がない
- 4.信仰はもっていないし、宗教にもまったく関心がない

この質問は日韓に共通して4回も行っている。質問に対し、「現在、信仰をもっている」と回答した割合を日韓とも男女別に比較した。

グラフ 23a1



* 「信仰をもっている」という割合が4回の調査とも、日韓で大きな差がある。男女差はそれほど大きくないが、韓国の方がやや女性の割合が多い傾向が見てとれる。

b) 神仏や靈魂の存在を信じる割合

質問内容

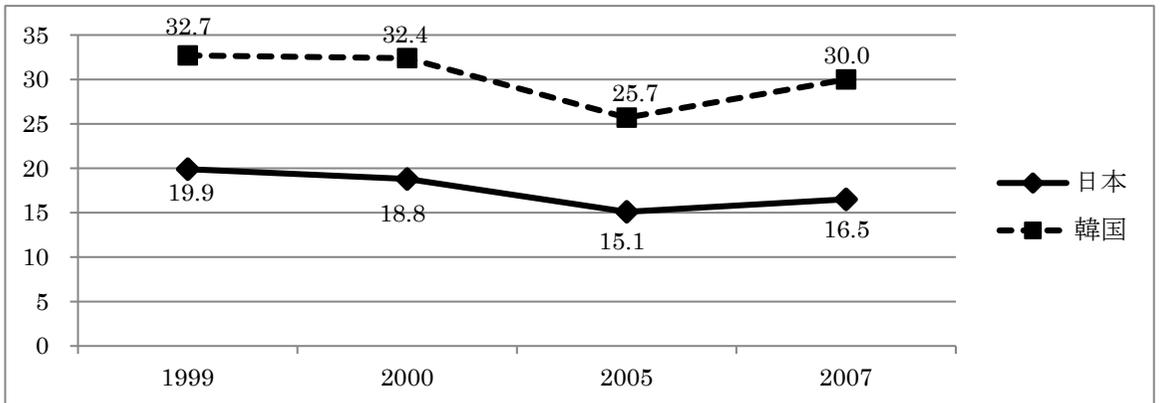
神や仏の存在について、あなたはどのように思いますか。「1.信じる 2.ありうと思う 3.あまり信じない 4.否定する」のなかから、番号で答えて下さい。

- 1.神の存在[] 2.仏の存在[] 3.靈魂の存在[]

この質問について、神の存在、仏の存在、靈魂の存在に関し、それぞれ「信じる」と回答した人の割合を比較する。

①神の存在

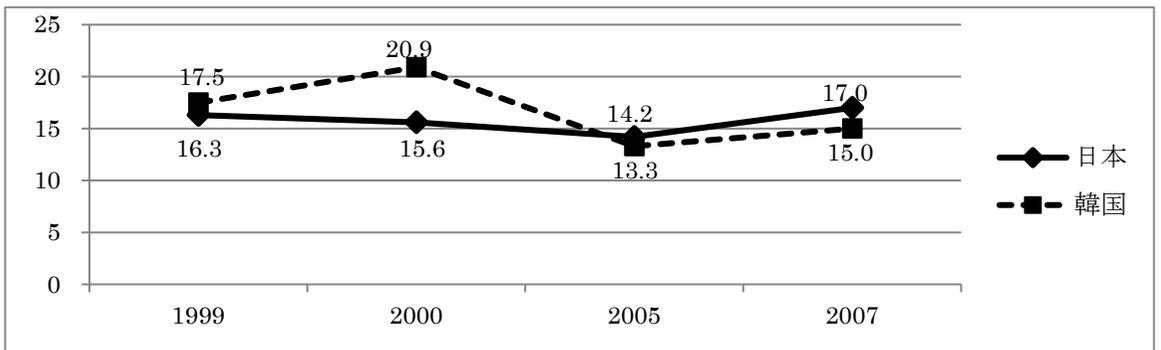
グラフ 23b1



* 4回とも韓国の方が明らかに高い割合を示し、1.5倍～2倍程度多い。

②仏の存在

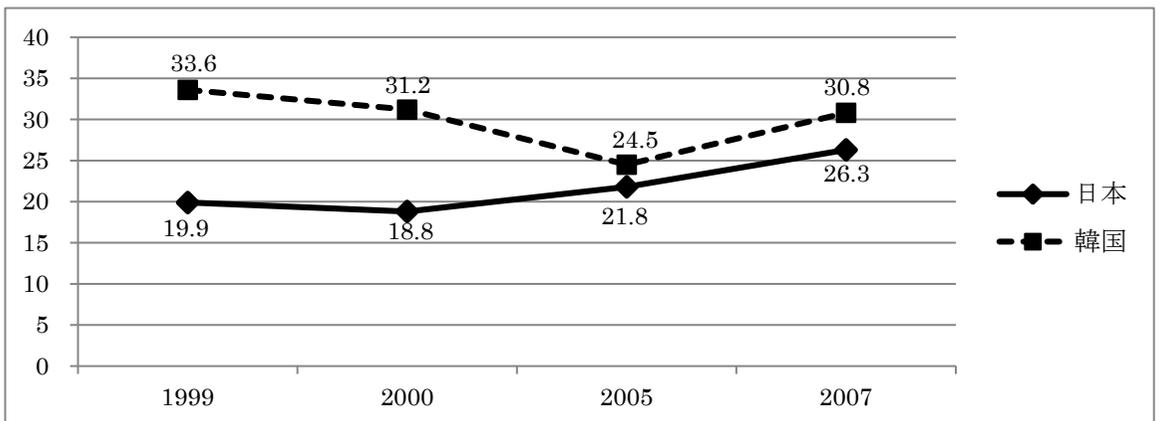
グラフ 23b2



* 仏の存在に関してはあまり差がない。

③靈魂の存在

グラフ 23b3



c) 死後の世界

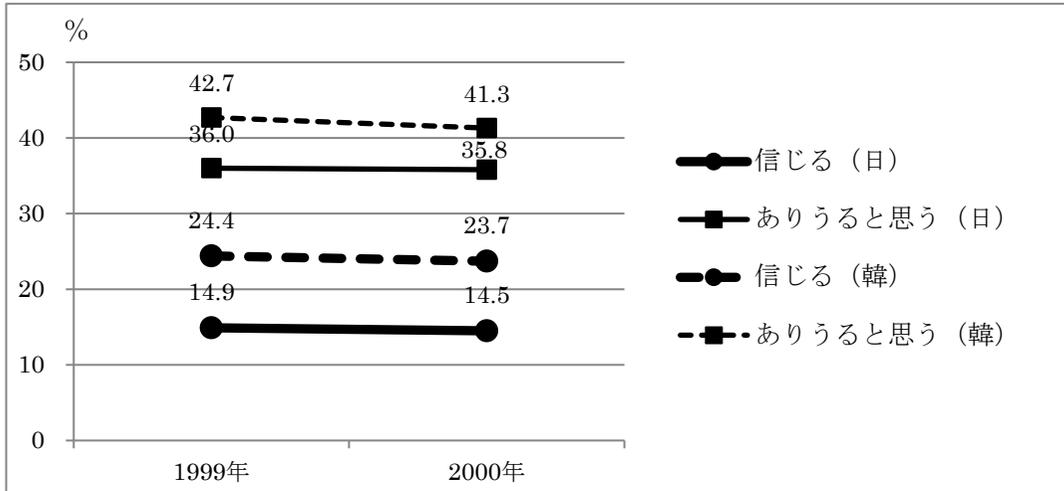
死後の世界に関する項目は1999年と2000年に共通して設けている。

質問内容

次の事柄について、「1.信じる 2.ありうと思う 3.あまり信じない 4.否定する 5.その事柄を知らない」のなかから、番号で答えて下さい。

6. 死後の世界の存在 []

グラフ 23c1



* 「信じる」という割合も「ありうと思う」割合も、韓国の方が高い。とくに「信じる」という割合は2回とも1.5倍以上の多さになる。

第24章 家庭の宗教環境

a) 両親の信仰

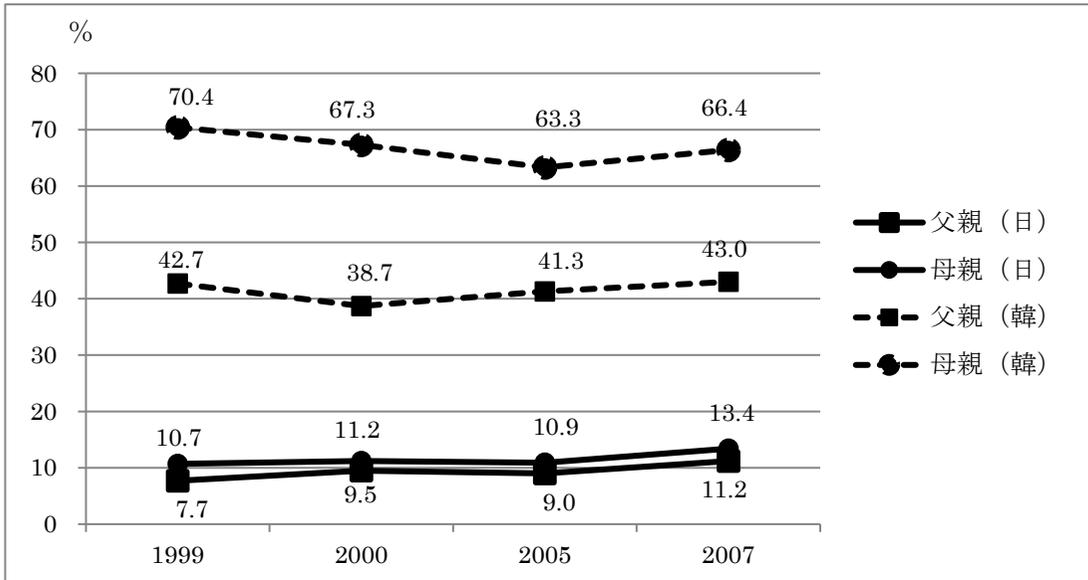
日韓とも父母それぞれについて信仰をもっているかどうかを質問しているの、4回の結果を比較してみる。

質問内容

あなたのお父さんは個人で信仰をもっていますか。 1.はい 2.いいえ

あなたのお母さんは個人で信仰をもっていますか。 1.はい 2.いいえ

グラフ 24a1



* 韓国が日本よりも両親が信仰をもつ割合が高く、両国とも母の方が父より信仰を持つ割合が高い。また母親と父親との信仰をもつ割合の差は韓国の方が大きい。韓国の場合は約3分の2の母親が信仰をもっていることが分かる。

第25章 宗教習俗への関わり

a) 墓参り

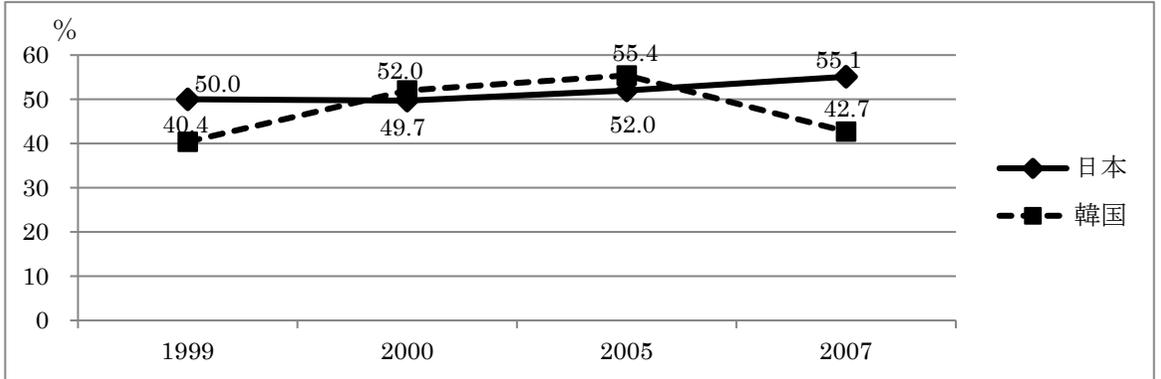
宗教習俗のうち、墓参りは両国において中心的なものの一つであるので、日本はお盆、韓国はチュソクの際の墓参りをしたかどうかで比較した。

質問内容

あなたは去年のお盆の墓参りはどうしましたか。次のうちから選んで下さい。

- 1.家族と行った 2. 家族とは別に自分だけで行った 3. 行った家族もいるが自分では行かなかった 4.家族の誰も行かなかった 5.その他[]

グラフ 25a1



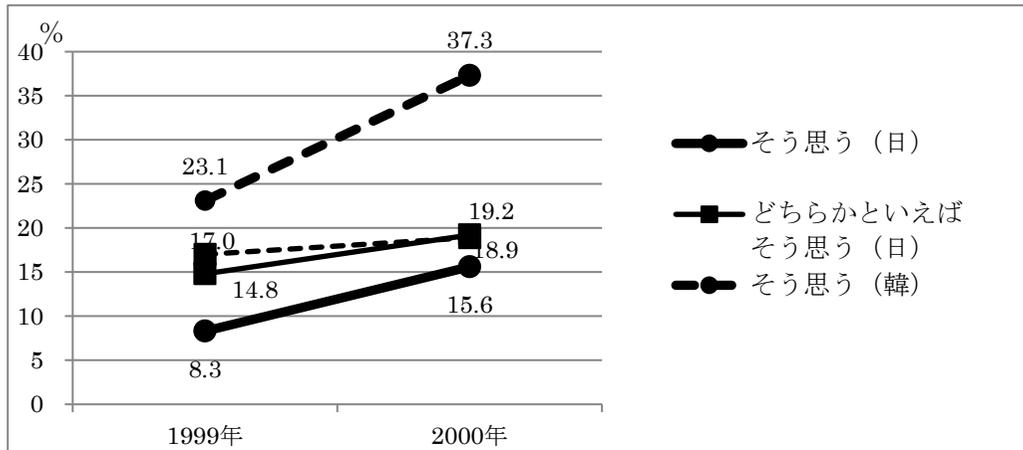
b) 信仰と宗教習俗との関係

質問内容

次の事柄について、「1.そう思う 2.どちらかといえばそう思う 3.どちらかといえばそう思わない 4.そう思わない」のいずれかの番号で答えて下さい。

4. ふだん信仰のない家が、葬式の時だけ僧侶(お坊さん)をよぶのはおかしい。 []

グラフ 25b1



*はっきりおかしいと思う割合は韓国が高い。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると、日本は23.1%と40.1% (1999年)、34.8%と56.2% (2000年) となり、おかしいのではないかという反応は韓国が日本の1.5倍強である。

第26章 宗教や宗教家への意見

宗教や宗教家についての意見は、3つを比較してみる。1つは宗教者の信頼に関する質問で、「相談したいと思う宗教者」についてである。宗教に関する意見は「宗教は必要」と思うかどうかと、「宗教はアブナイ」と思うかどうかという、肯定的、否定的の両方に関して比較する。

a) 相談したい宗教家

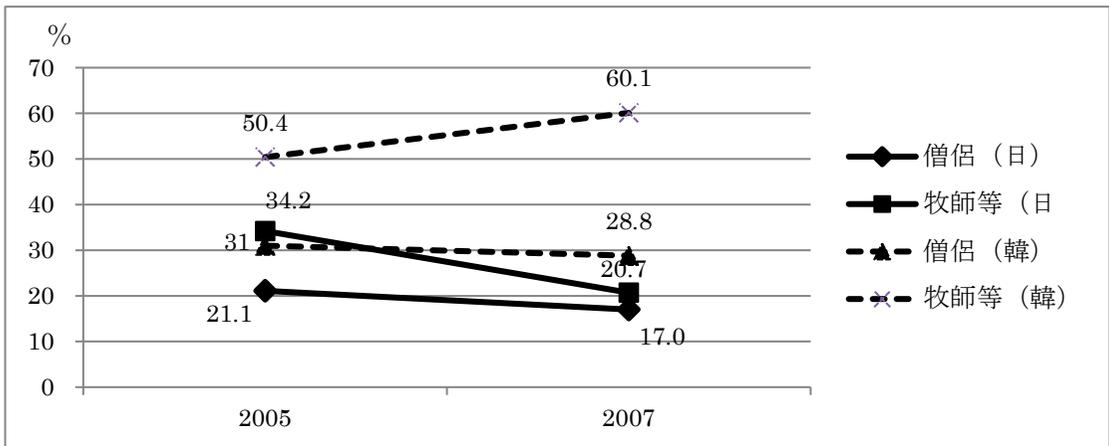
質問内容

人生に悩んだ時に、相談したいと思う宗教者がいたら次から選んでください。[複数回答可]

- 1.仏教の僧侶
- 2.キリスト教の牧師・神父・シスター
- 3.神社の神主
- 4.街の占い師
- 5.その他の宗教家(具体的に:)

この質問を共通して行ったのは2005年と2007年の2回である。

グラフ 26a1



* 韓国の場合、キリスト教関係者が高い割合を示すが、これは韓国に日本より多くのキリスト教信者がいることと関係していると考えられる。

b) どんなに科学が発達しても宗教は必要

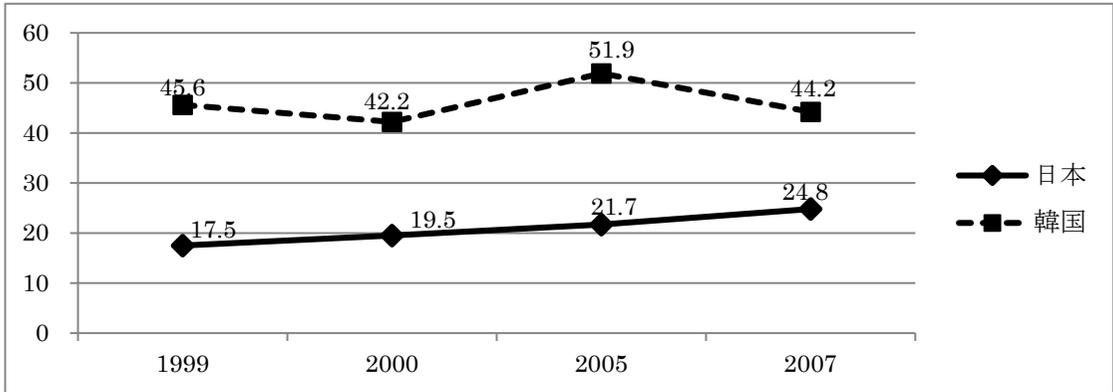
質問内容

次のような意見について、「1.そう思う 2.どちらかといえばそう思う 3.どちらかといえばそう思わない 4.そう思わない」のいずれかの番号で答えて下さい。

「どんなに科学が発達しても、宗教は人間に必要だ。」 []

この質問は日韓において4回とも共通して行ったので、その結果を示す。

グラフ 26b1



* 信仰をもつ割合が韓国が高いのを反映して、この質問でも韓国の方が非常に高い。2~3倍の差がある。

c) 宗教はアブナイと思うか

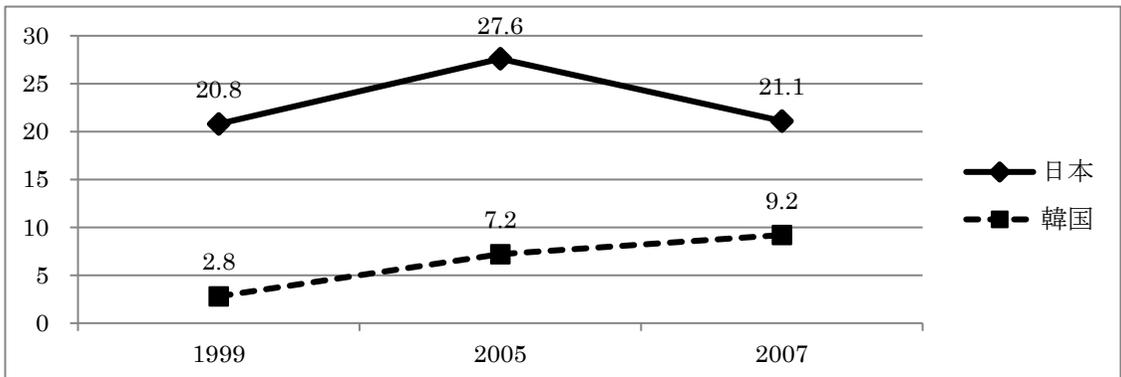
宗教に否定的な意見あるいはイメージを持つ割合を、宗教についてアブナイというイメージを持つかどうかで調べたが、日韓ではどのような違いが出たであろうか。これに関する質問を共通して行ったのは、1999年、2005年、2007年の3回である。

質問内容

次のような意見について、「1.そう思う 2.どちらかといえばそう思う 3.どちらかといえばそう思わない 4.そう思わない」のいずれかの番号で答えて下さい。

「一般的に宗教は、アブナイというイメージがある。」 []

グラフ 26c1



* 宗教がアブナイと思う割合は、日本の方がはるかに高い。ただ、韓国でも少しずつ増えていることが注目される。

第27章 宗教関連の社会問題

宗教関連の社会問題は数多くきいているが、宗教の勧誘、愛国心、靖国問題、脳死と臓器提供、ジェンダー問題について比較してみる。

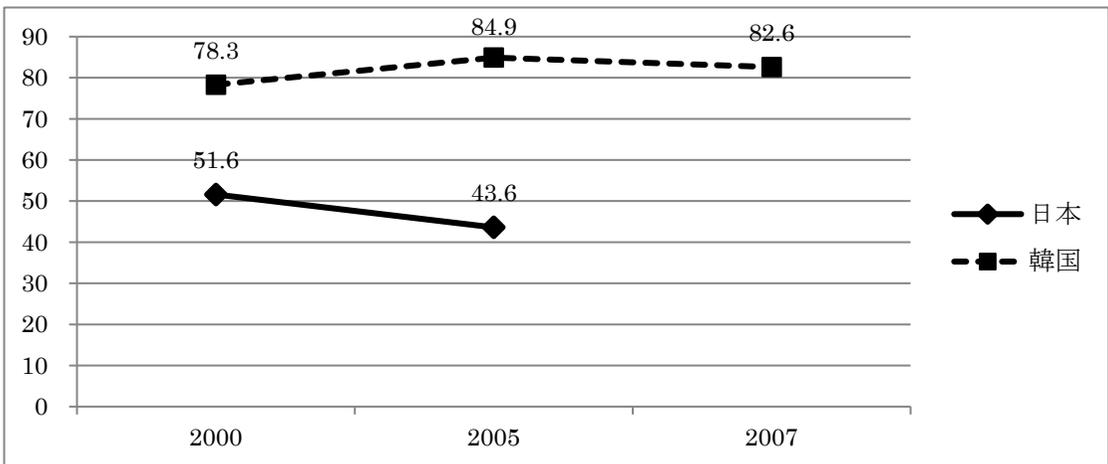
a) 宗教の勧誘

質問内容

あなたは見知らぬ人から宗教の勧誘を受けたことがありますか。 1.はい 2.いいえ

この質問は韓国では3回おこなったが、日本では2007年に質問を少し変えたので、2007年の数値は示してない。

グラフ 27a1



b) 愛国心

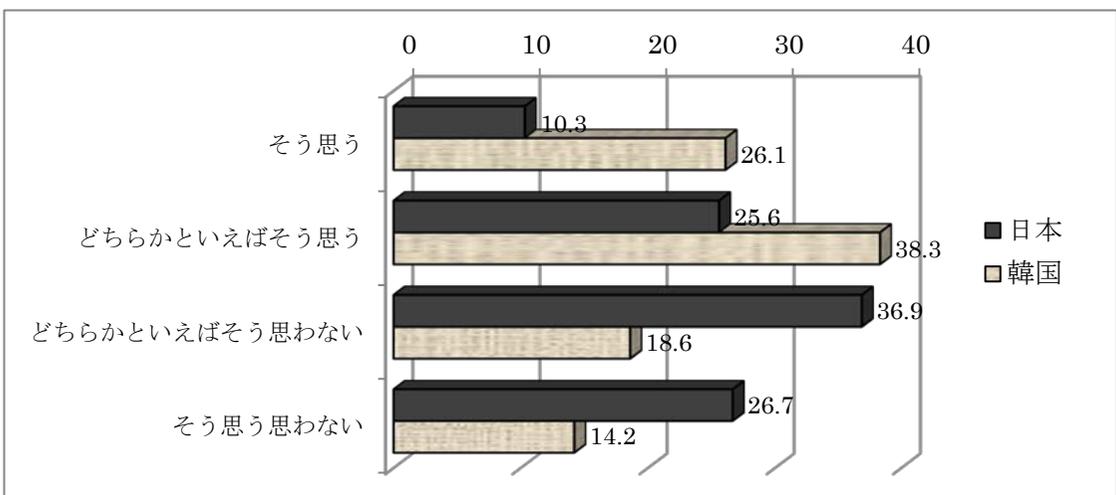
質問内容

宗教と教育に関する次の意見について、「1.そう思う 2.どちらかといえばそう思う 3.どちらかといえばそう思わない 4.そう思わない」のいずれかの番号で答えて下さい。

「高校までの教育で、愛国心を深めるための工夫をした方がいい。」

[]

グラフ 27b1



c) 靖国問題

靖国問題について、日韓に共通の設問をしたのは2005年だけである。

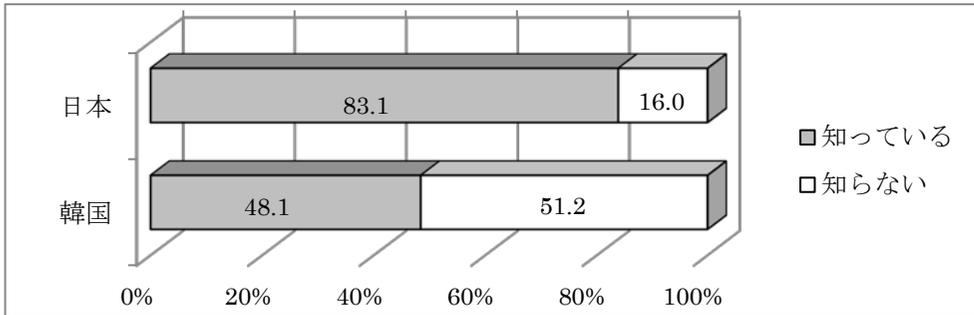
①対立があることの認識

質問内容

首相が靖国神社を参拝することをめぐって対立する意見があることを知っていますか。

- 1.知っている 2.知らない

グラフ 27c1



*日本は8割以上が「知っている」と回答しているが、韓国は半数弱である。

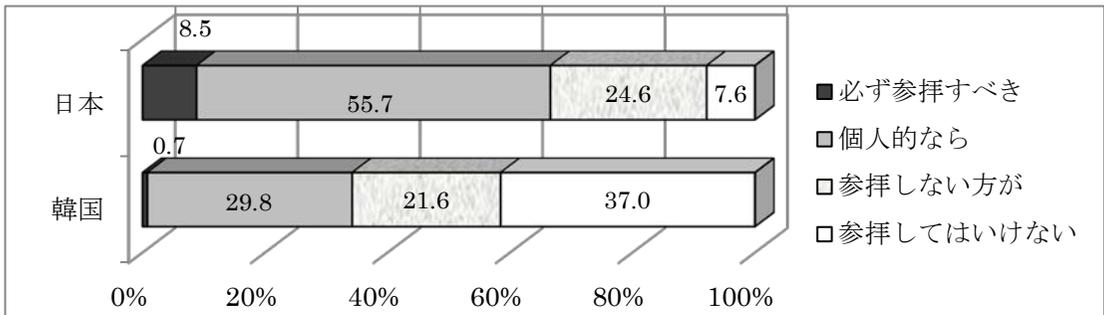
②首相参拝への意見

質問内容

あなたは首相が靖国神社を参拝することをどうおもいますか。次から1つ選んでください。

- 1.必ず参拝すべきである 2.個人的な信仰なら参拝してもいい
3.参拝しない方がいい 4.参拝してはいけない

グラフ 27c2



*日本では「個人的な信仰なら参拝してもいい」が過半数を占めたが、韓国では「参拝してはいけない」が4割近い。しかし韓国でも「個人的な信仰なら参拝してもいい」が3割近くであることは興味深い。

d) 脳死と臓器提供

質問内容

[2000年と2007年]

次の事柄について、「1.そう思う 2.どちらかといえばそう思う 3.どちらかといえばそう思わない 4.そう思わない」のいずれかの番号で答えて下さい。

自分が脳死状態になったら、臓器を提供したい。 []

[2005年]

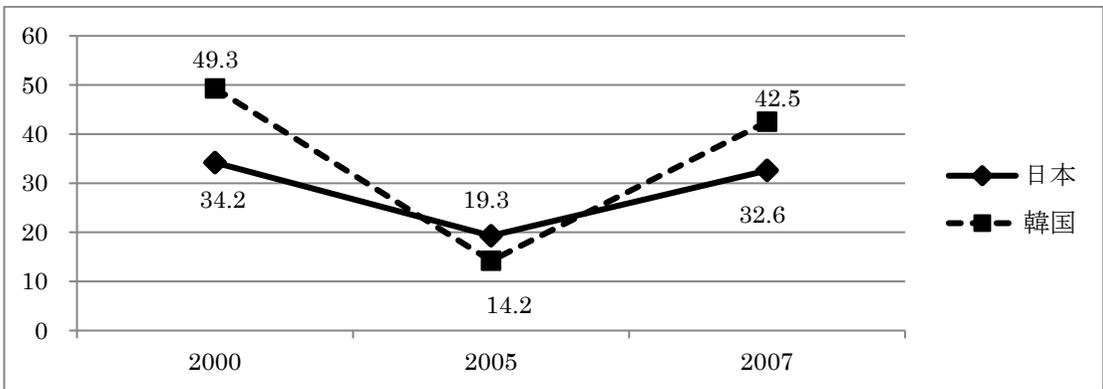
あなたが脳死状態になった場合、臓器を提供することをどう思いますか。

- 1.ぜひ提供したい 2.提供してもよい 3.あまり提供したくない 4.絶対提供したくない
- 5.その他[]

2000年、2007年の質問と2005年の質問とでは質問内容と回答の選択肢がいずれも少し異なる。2005年は強い肯定の選択肢が設けられていて、それが反映された結果になっている。そこで、1を選んだ割合と1または2を選んだ割合の2つを以下に示す。

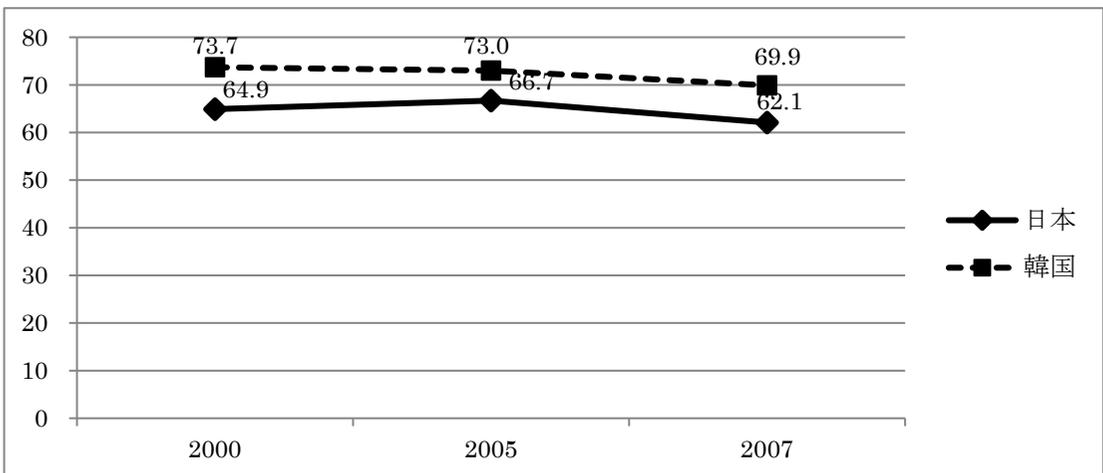
<1を選んだ割合>

グラフ 27 d1



<1または2を選んだ割合>

グラフ 27 d2



e) ジェンダー問題

ジェンダー問題に共通の質問をしたのは1999年、2000年、2005年の3回である。ジェンダー問題では日本での調査でいずれの質問内容によっても男女差が出たが、日韓で比較するとどうなるかを調べた。とくに宗教教団における役職や地位に関わる点での回答を比較する。

質問内容

(1999年と2000年)

宗教によっては女性が教団の特定の役職や地位につけないところがあります。これについてあなたはごどう思いますか。

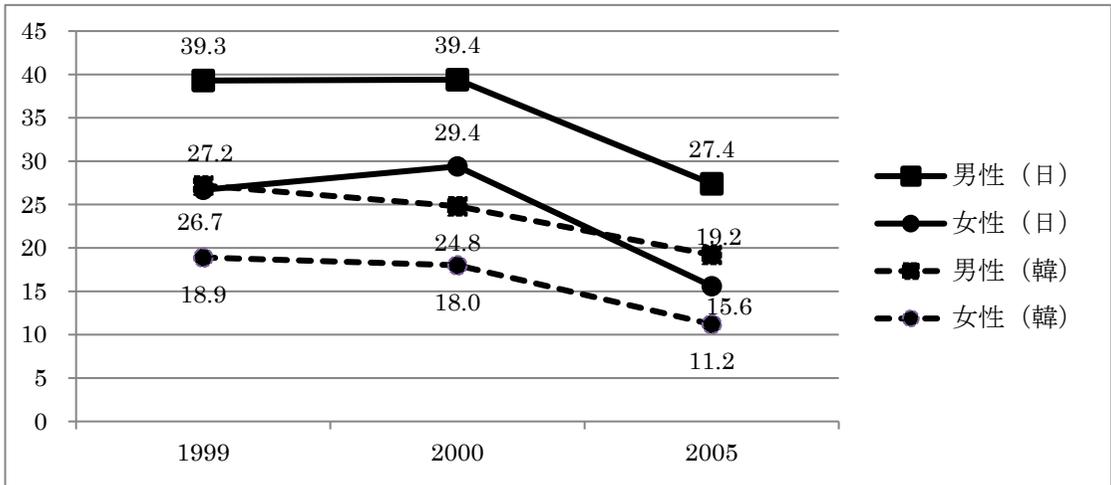
- 1.その宗教の決まりにもとづくものだからそれでよい。
- 2.たとえ宗教の決まりであっても、そのようなことは問題である。
- 3.このような問題には関心がない。

(2005年)

宗教によっては女性が教団の特定の役職や地位につけないところがあります。これについてあなたはごどう思いますか。

- 1.差別だと思う
- 2.差別だと思わない
- 3.分からない

グラフ 27e1



* 1999年と2000年は問題と思わない割合、2005年は差別だと思わない割合をグラフにした。日本の方が差別でないと思う割合が高い。両国とも男性の方が女性より差別でないと思う割合が高い。

第28章 オウム真理教について

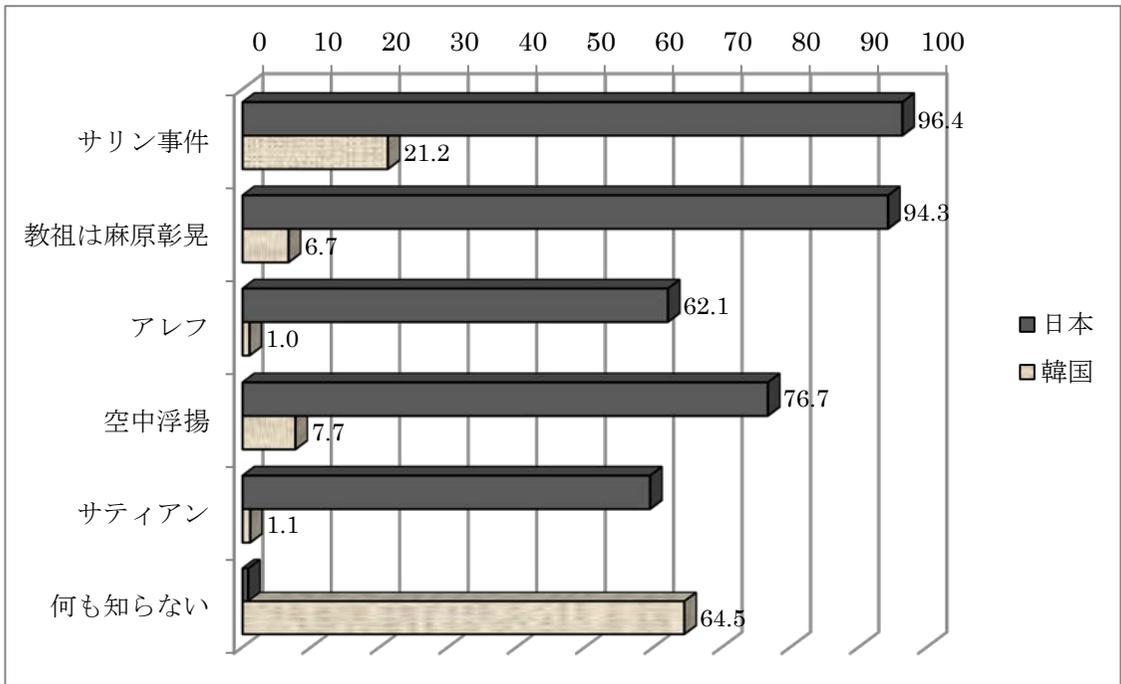
オウム真理教事件は日本では広く知られているが、韓国で知られている割合はだいぶ低いと考えられる。地下鉄サリン事件から10年を経た2005年に日韓でオウム真理教に関してどの程度知っているかを調査したので比較する。

質問内容

オウム真理教について、以下のうちあなたが知っているものに○をしてください。[複数回答可]

- 1.1995年に地下鉄サリン事件を起こした
- 2.教祖は麻原彰晃(本名松本智津夫)である。
- 3.現在はアレフと名乗って活動している
- 4.修行によって空中浮揚など超能力が得られると主張した
- 5.信者たちが修行していたところはサティアンと呼ばれていた
- 6.オウム真理教については何も知らない

グラフ 28a1



*当然のことであるが、韓国では3分の2近くが「何も知らない」と回答している。しかし、サリン事件については2割強が知っていたことが分かる。

第29章 イスラム問題

a) イスラム教への関心

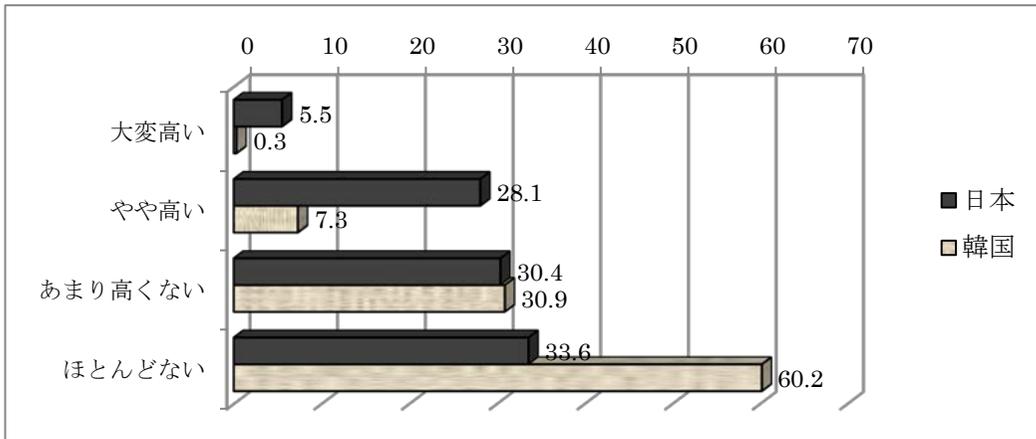
自由記述においてもイスラム問題への関心は日韓とも少しずつ高まっているが、共通する質問は2005年の1回だけなので、この年での関心度合を比較してみる。

質問内容

最近のあなたのイスラム教への関心は次のうちどれですか

- 1.大変高い 2.やや高い 3.あまり高くない 4.ほとんどない

グラフ 29a1



* 2005年の時点では、日本の方がいくらかイスラム教への関心が高いことが分かる。

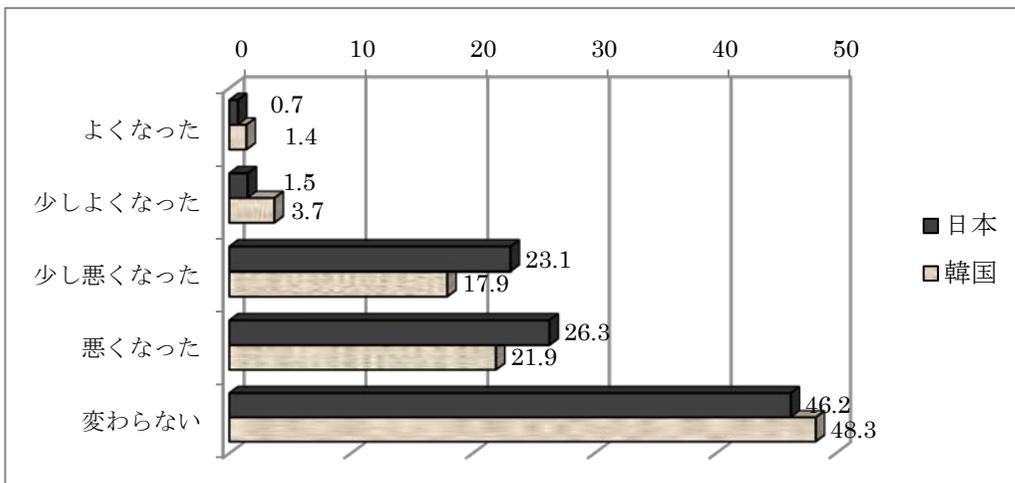
b) 「9.11」後のイスラム教のイメージ

質問内容

「9.11」(米国同時多発テロ事件)以後、イスラム教へのあなたのイメージはどうなりましたか。

- 1.よくなった 2.少しよくなった 3.少し悪くなった 4.悪くなった 5.変わらない

グラフ 29b1



* 「9.11」以降どれくらいイスラム教のイメージが悪くなったかについて、日韓でそれほど大きな差は見られないが、韓国の方がイメージが悪くなった割合が1割ほど多い。「変わらない」という回答はどちらも半数近くである。

第30章 宗教教育に関すること

a) 宗教教育の必要性

質問内容

(1999年)

次のような意見について、「1.そう思う 2.どちらかといえばそう思う 3.どちらかといえばそう思わない 4.そう思わない」のいずれかの番号で答えて下さい。

「高校までにもっと宗教についての基礎知識を教えるべきだ。」 []

(2005年)

宗教についての次の意見について、「1.そう思う 2.どちらかといえばそう思う 3.どちらかといえばそう思わない 4.そう思わない」のいずれかの番号で答えて下さい。

「高校までにもっと世界の宗教についての基礎知識を教えるべきだ。」 []

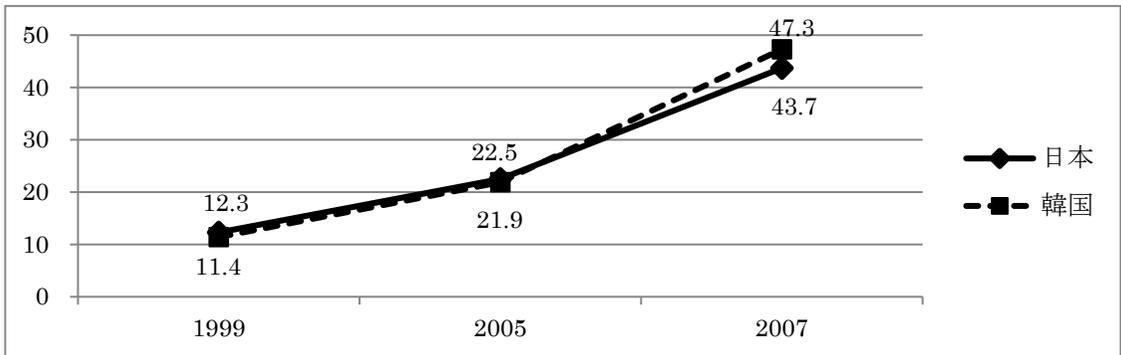
(2007年)

宗教と教育に関する次の意見について、「1.そう思う 2.どちらかといえばそう思う 3.どちらかといえばそう思わない 4.そう思わない」のいずれかの番号で答えて下さい。

「高校までに日本や世界の宗教文化についての基礎的な知識を学んだ方がいい。」 []

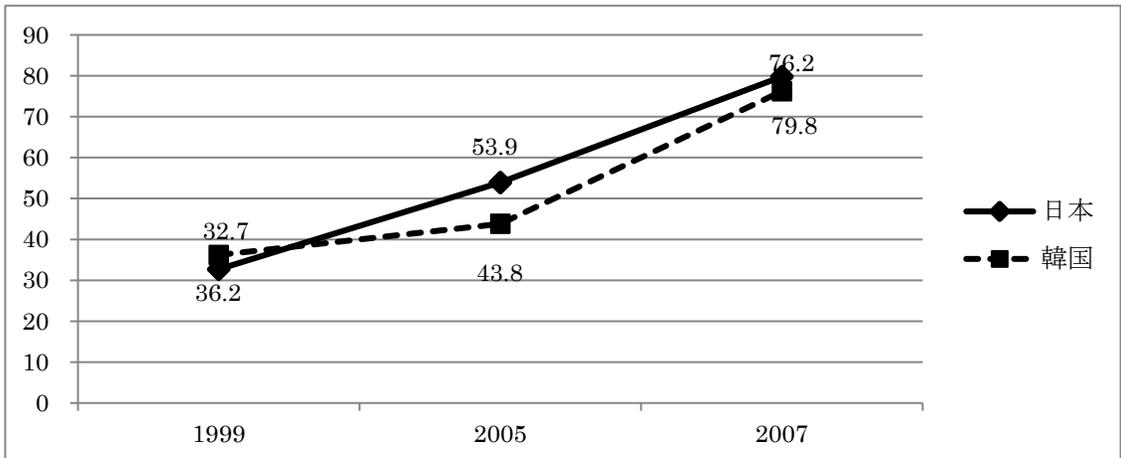
以上の質問に「そう思う」と答えた割合と肯定的意見を、それぞれ次の2つのグラフで比較する。

グラフ 30a1

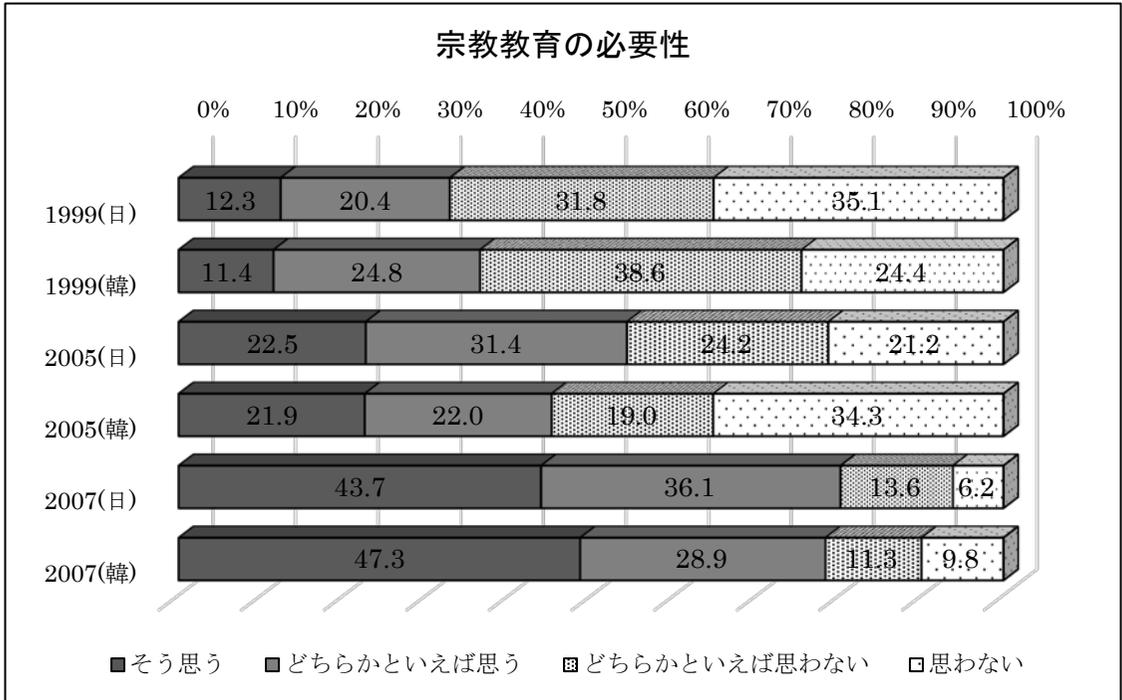


* 日韓とも差がなく、かつ質問内容の変化に応じた増加になっている。

グラフ 30a2



グラフ 30a3



* 「そう思う」は日韓とも似た増加。どちらかといえばそう思う」は日本の方が増加がやや顕著。

第31章 サブカルチャー、その他

サブカルチャー、その他に関しては、日韓であまり大きな差がない。このことを占い関連（手相、血液型による性格判断、姓名判断、風水）と、超常現象関連（テレパシー、前世・生まれ変わり）で見てみる。またこれらを含むウェブ上の宗教情報への関心も比較する。

a) 占いへの関心

質問内容

次にあげた占いについて「1.かなり当たると思う 2.当たることもあると思う 3.当たらない 4.関心がないのでどのようなことをするかわからない」のなかから、番号で答えて下さい。

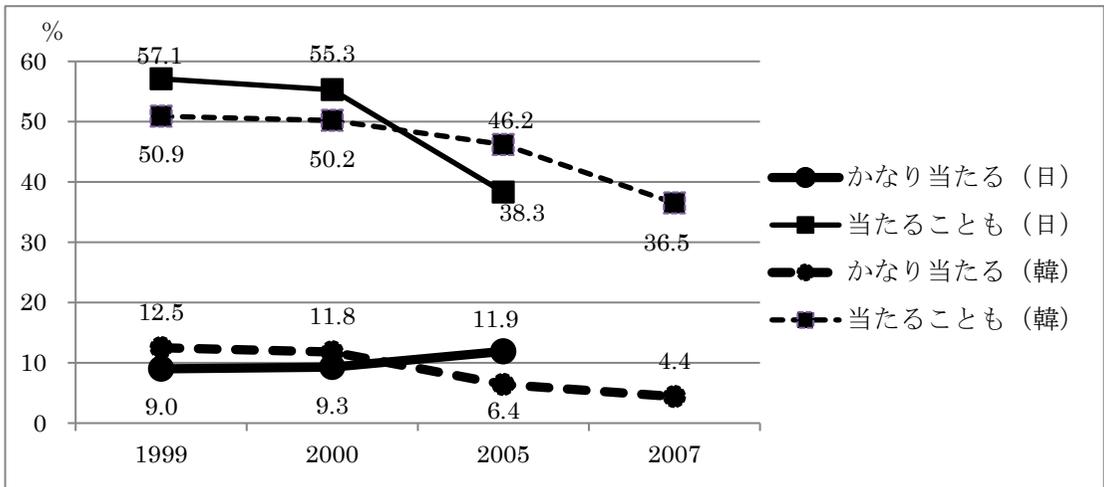
- | | | | |
|--------------|-----|--------------|-----|
| 1.こっくりさん | [] | 5.タロット占い | [] |
| 2.手相 | [] | 6.血液型による性格判断 | [] |
| 3.姓名判断 | [] | 7.神社・仏閣のおみくじ | [] |
| 4.生まれ月による星占い | [] | 8.コンピューター占い | [] |

占いに関する質問では 2000 年にはコンピュータ占いを外し、ジンクスと風水を加えた。占いに関しては、質問項目が一部調査ごとに変ったものがあるので、手相、血液型による性格判断、姓名判断についての比較を示す。

①手相

手相について、「かなり当たると思う」及び「当たることもあると思う」と回答した割合を比較した。

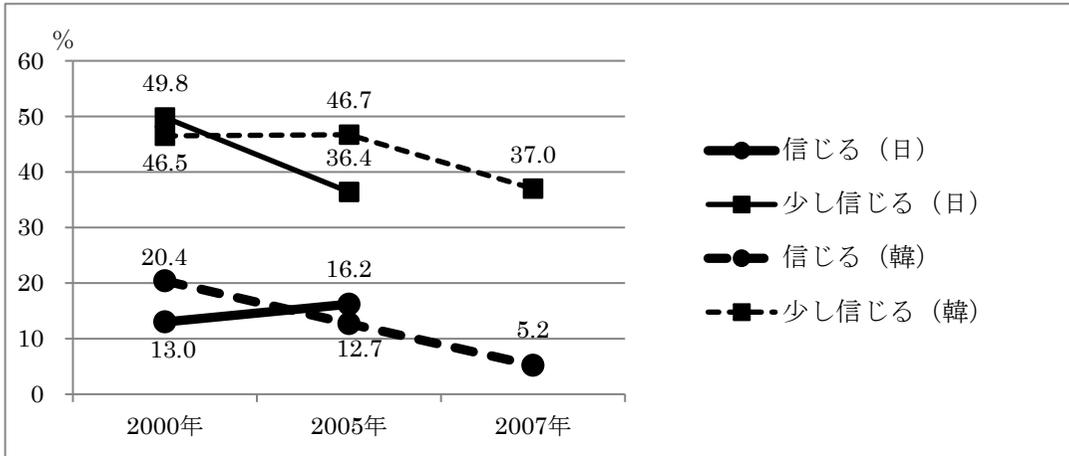
グラフ 31a1



* 日本では2007年にはこの質問を設けなかった

②血液型による性格判断

血液型による性格判断について、「信じる」「少し信じる」と回答した割合の比較
 グラフ 31a2

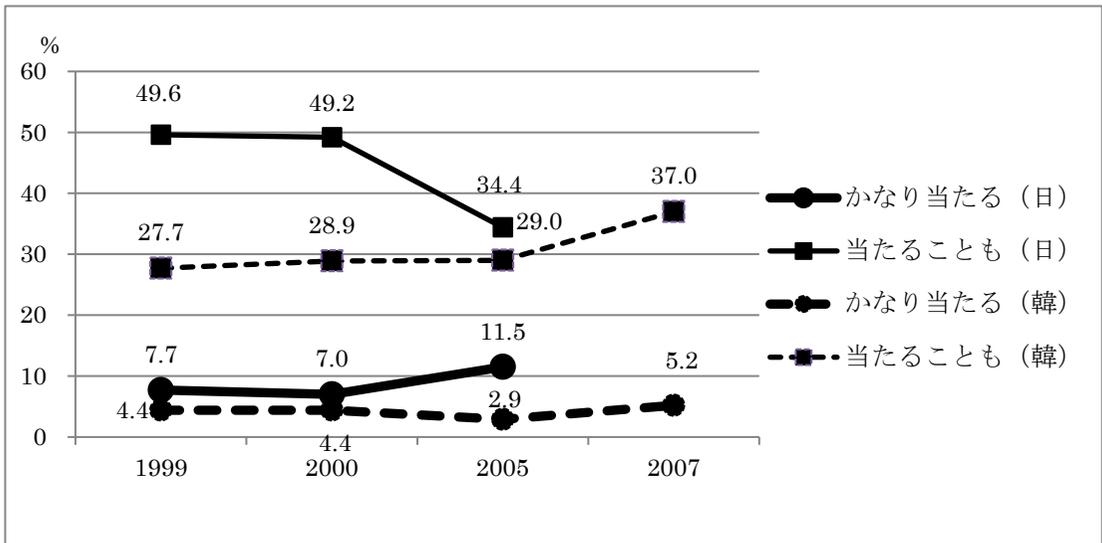


* 日本では2007年にはこの質問を設けなかった。

③姓名判断

姓名判断について、「かなり当たると思う」及び「当たることもあると思う」と回答した割合を比較した。

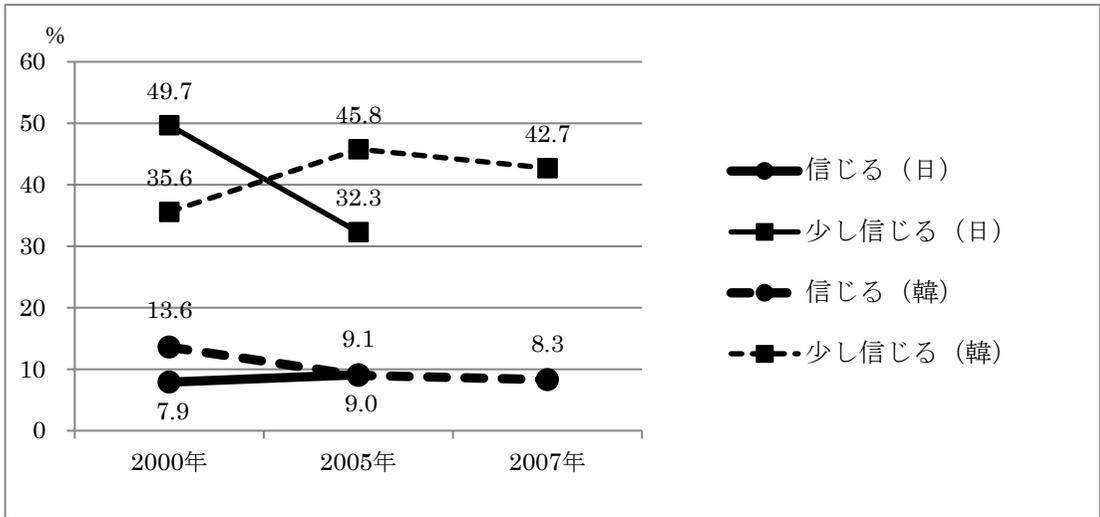
グラフ 31a3



* 姓名判断は日本の方が信じる割合が高い。日本では2007年にはこの質問を設けなかった。

④風水

グラフ 31a4



* 日本では2007年にはこの質問を設けなかった。

b) 超常現象などへの関心

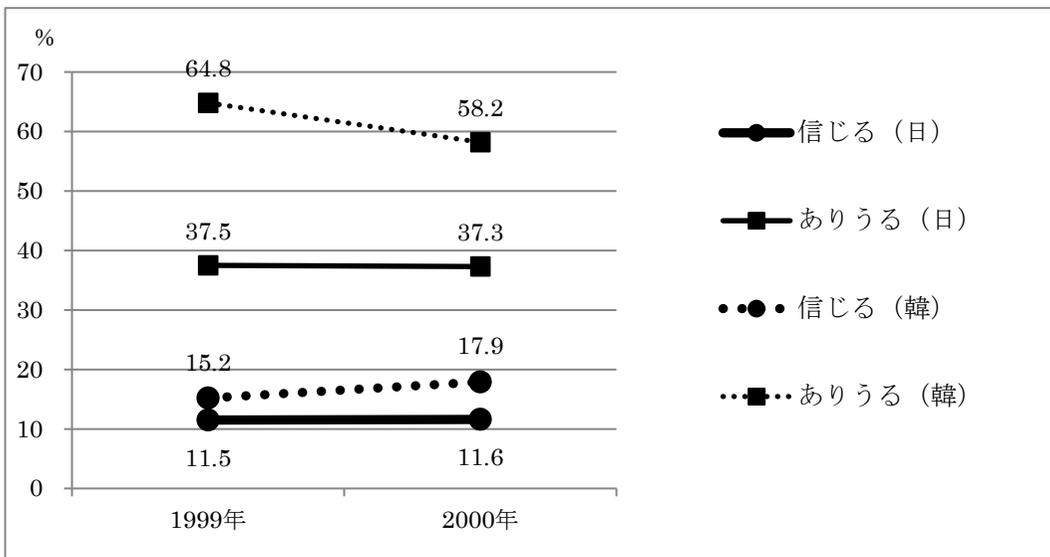
①テレパシー

質問内容

次の事柄について、「1.信じる 2.ありうと思う 3.あまり信じない 4.否定する 5.その事柄を知らない」のなかから、番号で答えて下さい。

テレパシーの存在 []

グラフ 31b1



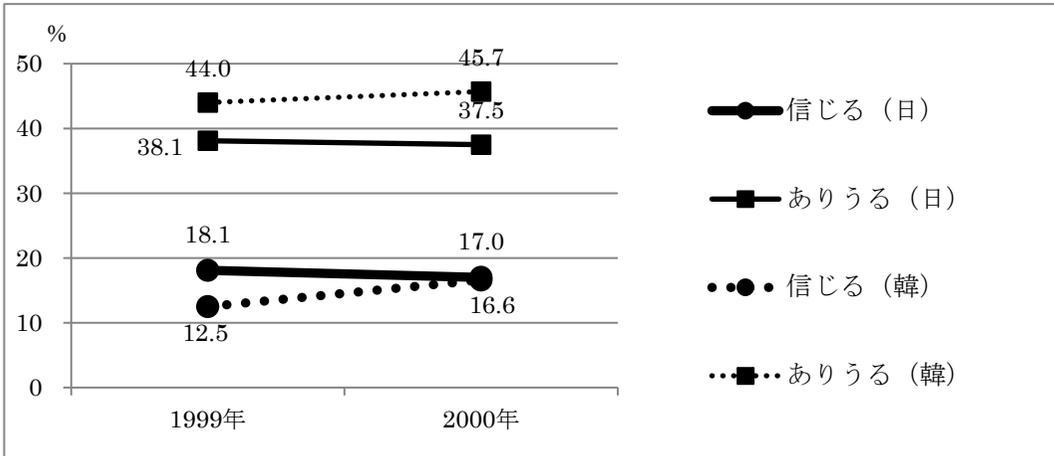
②前世・生まれ変わり

質問内容

次の事柄について、「1.信じる 2.ありうと思う 3.あまり信じない 4.否定する5.その事柄を知らない」のなかから、番号で答えて下さい。

前世・生まれ変わり []

グラフ 31b2



c)ウェブ上の宗教情報への関心

宗教関連のどのようなホームページに関心あるかは、2005年と2007年に日韓で質問している。

質問内容

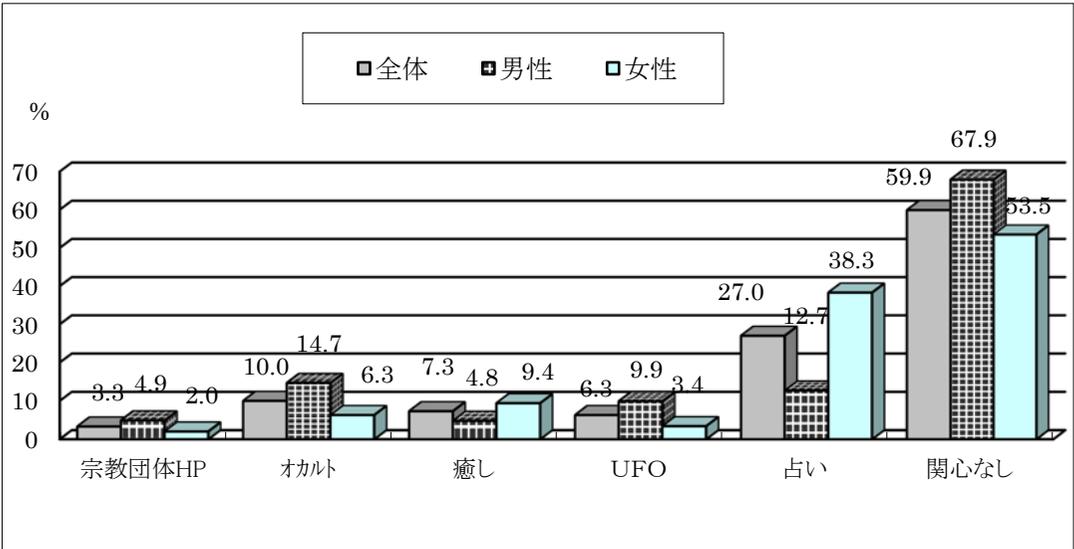
インターネットのホームページのうち、あなたが関心をもっているものを選んでください。[複数回答可]

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1.宗教団体のホームページ | 2.オカルト・超常現象に関するホームページ |
| 3.癒し・スピリチュアリティに関するホームページ | 4.UFOに関するホームページ |
| 5.占いにに関するホームページ | 6.1~5のようなホームページには関心はない |

この結果は日韓とも男女差が顕著であったので、男女別にグラフで示す。男女差はとくに「占いに関するホームページ」において大きく、2007年で日韓とも女性が男性の約3倍ほど関心を持っていることが分かる。

<日本>

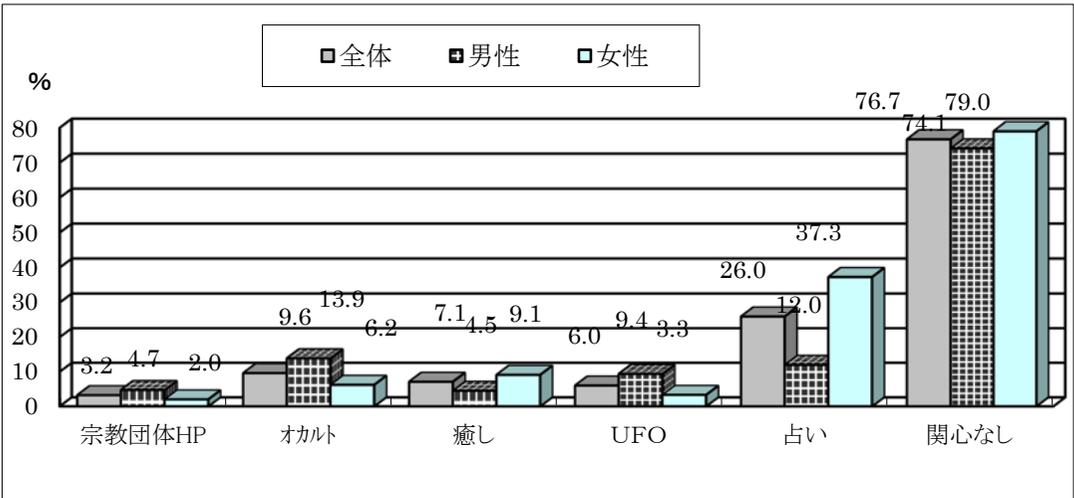
グラフ 31c1



*UFO、オカルトにおいて男性が高く、癒しと占いにおいて女性が高い

<韓国>

グラフ 31c2



*日本と同様にオカルトとUFOで男性が高く、癒しと占いで女性が高い。